

「日朝なにわの翼」訪朝報告

全日建連帯労働組合近畿地方本部
関西地区生コン支部
執行委員 N・N



5月3日から7日期間で「日朝なにわの翼2008」にて朝鮮民主主義人民共和国へのツアーに参加しました。日本政府による経済制裁が現在も続く中、無事に共和国に到着できるかと不安を抱きながら飛行機に乗り込みました。今回のメンバーは、日朝市民連帯・大阪の共同代表の方を団長として、全港湾、日朝友好市民の会、フリージャーナリスト、朝鮮総聯大阪府本部国際統一部長の随行で計

13名を構成となり、その中にマスコミ（在関西民放放送）が同行していることに驚きながらの共和国への旅立ちになりました。



私自身、南の韓国には数十回行ってはいますが、北の共和国にはいることは初めてで、同じ民族でどこまで国が違うのか。又、日本やアメリカが敵視する国がどのようになっているのかを自分の目で見ることで共和国がどういう国かを判断したかった。このような目的でこのツアーに参加してきました。

中国経由で平壤空港に到着。飛行機から降りた瞬間にどろどろに伝わっている共和国のイメージが崩れ去りました。



きれいな空気・町並み。そして、いきいきと働いている労働者を見ることで、「アルンダウン ナラ」（美しい国）と認識した点が私の第一印象でした。伝え方一つでいかに悪い国にすることが出来るか日本政府のおこなう敵視政策がいかに間違っているか到着して数時間の間でこのような気持ちにさせられながらの訪朝スタートになりました。



朝鮮對外文化連絡協会（対文協）の同行で歴史的な場所や建造物を見学し、個人的に共和国に行くことが出来るなら必ず行きたかった北からの板門店にも行くことが出来たことが一番の収穫でした。韓国側からは2回行ったことがあるが、共和国から「板門店」に行くことが私自身の小さな夢でもあったことです。その理由として朝鮮の分断は大日本帝国の侵略がそうさせたということから、一人の日本人として双方の主張を聞いたかった点と、同じ民族が他国によって分断される民族のつらさは2000年6月15日の南北共同宣言を機に韓国の人達の統一への思いを私自身、肌で感じる事ができたことで、共和国の人達はどの様に現在思っているのだろうか直接聞いてみたかった点の2点です。



朝鮮戦争の停戦ラインである軍事境界線上に存在するこの地は韓国側から行ったときには向こうほどの様になっているのか未知の世界であり、共和国側から行くことで、現状を理解し、日本に発信したい小さな希望が芽生えたのも韓国側から板門店に行った時の個人的な感想でもありました。



まず入り口で1950年6月25日の朝鮮戦争が始まったときからの状況説明を受け、大きな地図を見ながら、この地がどこなのか説明を受けました（韓国と同じ感じ）。そして、非武装地帯の中に入り板門閣への道中は、農民の働く姿が目に映りました。停戦談判会議場では停戦協定調印の記念碑に「1950年6月25日朝鮮で侵略戦争を挑発した米帝国主義者達は英雄的朝鮮人民の前で膝を屈し、この場所で1953年7月27日停戦協定に調印した。」と書かれていた。その前で記念撮影し、板門閣へ。板門閣は大理石を使い重みのある建造物になっていました。そこを通り抜け韓国側の自由の家との間にある軍事停戦委員会本会議場に向かいました。ここで初めて共和国側から韓国に入ることになりました。唯一、国境を跨ぐことの出来る場所を南からと北からと歩くことが出来たことで日本人としての南北統一運動がまた一つステップUPして進めて行かなくてはならない気持ちにさせた瞬間でした。韓国側から行ったときと比べ写真撮影の制限が無く自由に撮影することができ、米軍が介入している韓国と共和国の違いを私の中で鮮明にわからせることができました。



板門店に南北から行くことができ、南北統一が進まない理由は、自国どおしの問題ではなく、日本が引き起こした朝鮮の分断に対する、未だに行われていない日本の正式な謝罪、そして米軍がこの場所にいる以上、統一が先送りになることは明らかであり、私たち日本人の運動のあり方を再度認識し、問題の重さを痛感させられた訪朝となりました。

以 上